



題字・イラスト：会員 加藤 比呂志

紺 碧

早稲田大学校友会 調布稲門会

調布稲門会 会報

2012.1 No. 35号

事務局 調布市若葉町 2-22-10

元木 勇 気付

Tel 03-3300-4554

Fax 03-3300-8728

編集責任者 吉田 忠洋

新年にあたって

会長 元木 勇(昭37政経)

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはお元気で、新年をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年は3月11日に発生した東日本大震災によって、多くの尊い人命が犠牲となったことに対し、深く哀悼の意を表します。

また未曾有の大災害およびその後の一連の地震や原発事故で被災されたすべての方々に、心よりお見舞いを申し上げるとともに、被災地域の安全の確保と、一日も早い復興を、哀心よりお祈りいたします。

東日本大震災によって自然の力の大きさ、生命の尊さ、人の「絆」の有難さなどを、改めて思い知らされました。

昨年の流行語の一つに「絆」が選ばれました。甚大な自然災害、それに伴うさまざまな問題や経済不安によって、多くの人が自らの人生観や価値観を顧みるとともに、人間同士の「つながり」の大切さを見直すようになりました。

さて、昨年12月4日(日)開催されました恒例の調布市福祉バザーでは今年も沢山の品物をご提供いただき、また火を使つての「焼き餃子」は、今年も大変評判がよく、これもひとえに皆様のご協力の賜と、心より御礼申



上げます。

昨年、第30回総会は3月11日の東日本大震災を受け、調布市防災課にお願いして「災害への普段の準備と避難」と題して講演をいただき、会員の方から大変有意義な内容

で参考になりましたとの事でした。また6人の新幹事も誕生し、会も活性化し、会の運営に参加し、協力して頂き大変良かったと、感謝しております。

又、会員増強も今年の重要な課題のひとつであり、一人でも多くのお知り合いの方を誘って、一緒に参加していただけるように、働きかけて下さい。

私達稲門会の目的は、ご承知の通り、①会員相互の親睦、②母校早稲田大学の発展に寄与する、③地域社会への貢献、となっております。

スポーツや趣味を通し、先輩、後輩が顔を合わせ、親睦を深める絶好の機会でもある、同好会活動が10あるので、是非参加して楽しんで下さい。

最後に、今後とも調布稲門会に対して、ご支援ご協力ご指導の程、宜しく願い申し上げ、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

会長18年の思い出 そして今

名誉会長 林 貞夫(昭25法)

昭和53年5月、府中校友会の故松本会長の要請を受けて3年半、56年10月31日に調布稲門会が誕生した。当時、学内の不祥事と大学創立百周年の募金目当の設立との風評に悩まされたが、早速、市議会議員だった吉尾前市長に相談し、故富沢氏(副会長)をはじめ、元木氏(現会長)、嶋田氏、鶴田氏等を紹介され、準備委員会を組織した。校友会の名簿を頼りに元木氏と戸別訪問して、会員募集したことも懐かしい思い出だ。次第に入会者も増え、会長、役員選考となったが、先輩諸兄が次々に辞退され、小生が引き受けることとなった。

在任中、最も印象に残っているのは、当時多摩地区で最高と言われた創立総会である。

清水、西原新旧両総長をはじめ、校友会、大学関係者、近隣稲門会のご来賓40名、会員140名余りが、国領町の第百生命(現マニユライフ生命)の大講堂に勢揃いした光景は、圧巻だった。多くのご来賓のスピーチのなかで、思い出深いのは、野球部の先輩で調布市在住の呉明捷氏だった。同氏は、戦前の東京六大学野球の大スターで、ホームラン記録(7本)保持者であり、早慶戦の決勝ホームランを神宮球場で見ただけに感激も一入だった。

会長あいさつのなかで、当時低迷していた運動部の強化のために推薦入学を積極的に取り入れるべきと要望したが、近年漸く実を結び、野球・ラグビー・駅伝などの優勝が嬉しい。

調布稲門会は多摩地区で12番目に誕生したが、創立総会の盛況で、「調布は凄い」と評判になった。現在は、多摩地区26市に結成され、東京三多摩支部となったが、その推進役を果たしたものと密かに自負している。

調布三田会とは、設立準備の時から、初代小津会長、小林幹事長と連絡を取り、61年5月の創立総会に招かれて以来、毎年相互に出席して会長がスピーチを交わしている。同好会の交流も行われ、63年10月には両会のゴルフ大会が桜ヶ丘CCで開催され、現在も続いているが、初代の優勝者は三田会の大嶋さんだったと記憶している。平成元年10月には、家族の方々も含めて200人余りが

参加した合同フェスティバルを開催した事も、一大イベントとして思い出される。当時は三田会との交流が盛んだったが、最近少なくなっているのは淋しい。

平成3年5月、創立十周年記念公開講演会を、グリーンホール(大ホール)で開催した。講師は、西原総長(当時)と野球評論家の広岡達郎氏(元ヤクルト・西武監督)、司会は「現代の語り部」平野啓子さん(元ミス東京)という豪華な顔ぶれだった。大変有意義なもので聴取者に深い感銘を与えた。

平成3年12月、調布市福祉祭りに三田会と共に参加して以来、「福祉の早慶戦」を繰り広げていたが、三田会女性陣の活躍で勝てなかった。その後、明治、中央、学習院、東海大など、六大学となり、祭りに華を沿えている。福祉祭りの設立に社協役員として係わった者として喜ばしい限りである。

創立以来10年間の主な行事を思い出すままに書き綴ったが、その後の8年間は、建設会社経営の他に、福祉、ロータリークラブ、スポーツなどの社会奉仕活動におわれて多忙を極め、稲門会への情熱が薄れたとの自己反省もあり、周囲から二十周年迄はとの推選もいただいたが、平成11年5月の総会をもって辞任して名誉会長に就任した。

会長在任18年間の実績によって、大学及び校友会の商議員、代議員、周年事業の募金委員を委嘱され、現在も賛助代議員の称号を頂いている。

私事で恐縮ですが、今年86歳になる私の健康法は月4回平均のゴルフである。昨年6月28日、よみうりゴルフクラブで、幸運にも恵まれて84で廻り念願のエージシュート(自分の年齢以下で廻ること)を達成できた。加齢とともに条件が緩和されるので、健康で体力を維持できれば達成できると思うので挑戦して下さい。

さて今や我国は、世界一の超高齢化時代を迎えており、百歳以上の人口は昨年9月現在、4万8千人余りと言われている。「人生70古来稀なり」と、唐の詩人「杜甫」がそう詠じたから70歳を古希といった。当時はまさに稀で彼は58歳で亡くなったが今はまるで違う。70歳以

上の人口は2,400万人を超え、総人口の16%余りで稀ではない。今ならこの詩のほうがぴったりだ。「百歳は古来稀なり」。90は稀とするに足るなし。80は大いに為すべし。70は得ること多し。中国の詩人で書家の「沙孟海」が友人の80歳のお祝いに送った詩だ。百歳を古希とすれば杜甫の古希は七掛となる（よみうり寸評より）。私は

丁度60歳になりますが、皆さん、年齢を七掛で算出し、適度な運動と、異性に関心をもって、若返り、大いに地域社会に貢献しようではありませんか。

新年にあたって

河野 瑠美(昭36教育)

明けましておめでとうございます

さる2011年は我々が調布稲門会発足30周年となる節目の年でした。その記念すべき年に、日本は3月11日に東日本大震災、大津波の来襲、引き続いて福島原子力発電所の人災とも言われる過酷な事故、秋には台風による洪水と次々に悪夢のような災害に見舞われました。

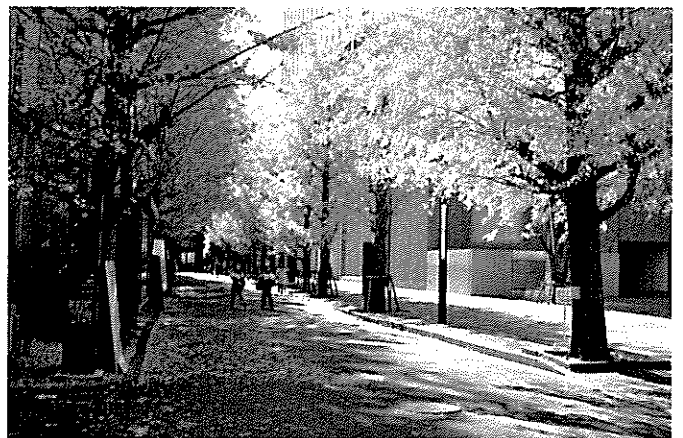
その中でも最悪の災害は原発事故です。歴史に「もし、はないと言われるが、あえて「もし、原発事故さえ防ぐことが出来ていれば、地震、津波や台風による被災地の復興はずっと容易に進んだのではないかと思います。次々と襲い掛かったこれらの災害から皆々様が一日でも早く立ち直れますよう心からお祈り申し上げます。

原発事故が発生してから初めて原発に関して何も知らなかった、又は何も知らずしなかった自分に気がつき、その上、何の根拠も無く、いわゆる「原発の安全性神話」を信じたがっていた自分に気が付きました。同時に、かの評論家・大宅壮一氏の「一億総白痴化のはじまりである」という言葉が妙に納得できるような気がします。いわゆる高度経済成長期といわれる時代の波に乗り、時と金を徒に浪費してきた付けが一気に日本列島に押し寄せた感じがします。

この八方ふさがりとも言える状況下で、子供達を無事に育てたいと、様々な形でネット上で繋がりを求め、被災地を支援し、政府の安全宣言にも納得せず放射能測定器を片手にボランティア活動する多くの若い世代の姿を見て、少し救われたような気がします。多分、行動する若

者達の間で意識改革が進み、責任の所在を明確にする組織、機構の変換へ進むのではないかと期待されます。

このような状況下で予定されておりました調布稲門会創立30周年記念行事は元木会長の決断によりすべて取り止めになりましたが、次の調布稲門会創立35、50周年記念が無事に行うことが出来る安全で平和な国、県、市町村になっていて欲しく思います。と言いますのも、私の母の実家は広島の実爆で失い、私の故郷でもある福島が原発事故で失われようとしていることから私の切なる願いでもあります。つい筆がすべり私事に亘り誠に申し訳ありません。ご寛容のほどお願い申し上げます。



十両・皇風関のこと

吉尾 勝征(昭43法)

あけましておめでとうございます。今日は調布稲門会
会員・直江俊司君について改めて紹介したいと思ひます。

2011年7月場所幕下
全勝優勝を果たし、9月場
所から「皇風」(きみかぜ)
として十両で活躍中の直江
君。その彼が「わんぱく相
撲調布場所」で優勝したの
は八雲台小学校4年生の時
でした。当時を知る青年会
議所のメンバーは「優しい
顔つきのぽっちゃりした可
愛い少年。しかし、まわし
をつけて土俵に上がると顔
つきが変わる。相手と見合
ったときのあの目つきは勝
負師そのもの、勝ち名乗り
を受ける彼の顔は真っ赤に
染まり湯気が出そうだった。
太った市長から表彰状が渡
された」と語ります。

勝つことの喜びに目覚め
た少年力士は一気に相撲界
へと導かれて行くことになり
ます。調布市立第七中学校
を卒業するまで府中住吉相
撲道場に通り稽古を重ね、
指導に当たった村上さんは
教え子の成長に目を細めな
がら、今も彼を見守ってい
ます。高校相撲名門の明治
大学付属中野高校に進学し
た直江君は、2年生で国体
個人優勝を果たします。順
風満帆に歩んできた彼が選
んだのが我が母校早稲田大
学スポーツ科学部、いや相
撲部。しかし活躍を期待さ
れ入った学生相撲の世界で
待っていたのは大きな試
練でした。

2年生で大けがを負ってし
まい、思うように相撲が取
れなくなった彼は、3年生
で相撲部を自ら去ることと
なります。子供の頃からひ
たすら歩んできた相撲の道

っぱり諦め、就職をしようと
考えたといひます。ところが、
相撲の神様はもう一度土俵
の上に立つチャンスを彼



に与えてくれました。それが、
尾車親方(元大関琴風)との
出会いです。琴風と言え
ば誰もが知る苦勞人の名
力士、けがを乗り越え、陥
落した幕下からはい上がり
名大関になりました。苦難
に負けず相撲の道を歩み続
けるひたむきな人柄。前へ
前へと押し相撲を貫き通す
土俵上の姿。相撲ファンだ
けでなく多くの人々から愛
され続ける昭和を代表する
力士です。

師となる親方との出会い
をきっかけにプロとして再
び土俵に立つ決意を固めた
直江君は、在学中に尾車部
屋に入門2009年1月場所
で初土俵を踏みます。郷土
調布で初、早稲田出身では
関脇笠置山以来78年ぶりに
関取となった皇風関。期待
と誇りが込められた化粧ま
わしは、新十両では異例の
5本を数えました。上へ上へ
と目指す彼にとっては、「郷
土調布で初」も「早稲田で
78年ぶりの快挙」もまだ
道半ばであるにちがひあり
ません。

白星を重ね、大きな風を
吹かせ、角界での快挙を成
し遂げてほしい。そして、
皇風関の相撲道を、多くの
皆さんと共に楽しみながら
歩んでいきたいと思ってい
ます。調布稲門会の皆さん、
応援してあげてください。
微力ながら、不肖私が後援
会長を務めます。

2011年 秋季代議員会

代議員 山崎 正昭(昭34商)

2011/9/24 (土)

早稲田大学 国際会議場にて 2011 年秋季代議員会が開かれる。

2010 年 11 月に第 16 代総長に就任された鎌田薫総長が、新しい校友会長として挨拶に立ち、厳しい時局に当たったの取り組みを話される。

Next 125 に向け活動の輪を広げる体制構築の年であったが、3/11 の東日本大震災により、2010 年度卒業式、2011 年度入学式も取りやめる事態となる。

4/8 学内に災害支援室を立ち上げる。

- ① 奨学金制度を中心とした「被災学生の就学支援」
- ② ボランティア活動や義捐金など「被災地域への支援」
- ③ 「研究を通じた復興支援」

の 3 つを柱とする支援活動に取り組んでいる。

早稲田大学の特色は多様性にあり、57 万人及ぶ校友が多彩な分野で活躍している。海外派遣留学生は 1800 人余、外国人留学生は 4000 人以上を受け入れている。

困難な時代、危機や有事にも先頭に立って対応できる、強力なリーダーが求められている。優れた能力と強いリ

ーダーシップを備えた人材を育成する。

2012 年 6 月以降、改選の代議員・商議員について、年齢制限を取決める。

若手の校友参加を促すため、代議員数を 1200 人から 1400 人に拡大する。

代議員は改選時 75 歳以下、商議員は 80 歳以下の校友を選出する。(任期中の交代は、交代時の年齢がそれぞれ 75 歳以下、80 歳以下の校友を選出)

晩夏の早稲田の杜、構内のイチョウ並木は、今も変わらず濃い緑の陰を落としていた。

正門から眺める学舎の様相は大きく変る。商学部の旧 5 号館は高層ビルに建て替わり、大隈像の背後が壁のように塞がれる。愈々、秋から本部館の建て替え工事が始まり、歴代の学舎を知る思い出のイメージは、記憶の中に薄れていく。

時とともに構内の様子も変わり、昭和も遠くなっている。

紺碧の自由広場のコーナー

大槻 誠孝(平成12法)

“ふるさととは遠きにありて思ふもの そして悲しくうたふもの”

室生犀星の小景異情 - その二からの有名な一節です。

またふるさとと云えば、われらが早稲田大学第一校歌にも“心のふるさとわれらが母校”とあります。しかし私は、生まれ育った調布市に対し、そもそもさほどの郷土愛を感じないうえに、早稲田大学に対しても過大な愛校心を抱くことは難しいようです。この郷愁不足な自分

自身にいささかの寂しさを覚え、この度の紺碧への寄稿を契機に早稲田と調布を、近くにあっても少し思ってみようと筆をとりました。

執筆にあたりどのようなアプローチで“ふるさと”に思いをはせることができるのかを考えて見ました。

まず考えたのは、調布市及び早稲田大学周辺のガイドブック的な紹介。または、調布稲門会ということもあり調布市、早稲田の両方、若しくはどちらかに縁のあるOB・OGの紹介です。そこで今回は、後者のOB・OG紹介をして

みることにしました。

どなたかをインタビューすることも考えましたが、先ずは私自身のご紹介が筋かと考えましたので、僭越ながらしたためさせていただきます。

私は昭和49年1月に下石原の千田医院で生まれ、マルガリタ幼稚園、第三小学校、調布中、この間1年間は山梨県韮崎市に、その後約4年間アメリカにいましたが、帰国後も調布から大学に通いその人生の殆どを市内で過してきました。卒業後は新宿にある旅行代理店に勤めましたが、今現在は飛田給にある爽爽荘と云う特別養護老人ホームに籍を置いております。

ここでそもそも私の職場である特別養護老人ホーム爽爽荘とはいったいどういったものなのかを説明させていただきます。

「特別養護老人ホームとは、身体上、または精神上、著しい障害があり、介護保険制度で介護の必要がある「要介護」の判定が出た人が利用可能な、老人福祉法上の老人福祉施設の中の一つ。」(Wikipediaより抜粋)です。介護保険法上正式には介護老人福祉施設といえます。現在調布市内には弊施設を含めて六カ所の特養があります。いずれも満床で待機者がいるかと思われまふ。良く入居金がかかるだとか、月に何十万もかかると云ったことを聞きますが、それらは有料老人ホームのことで、特養は入居時の負担金は一切ありません。また、月々の支払いも所得によって変わりますが、おおむね8~9万円程度です。もちろんこの中に食費等一切が含まれています。所謂「終の棲家」と呼ばれる施設で、基本的には亡くなるか、医療施設に長期入院するまでの生活の場となります。先ほども少し述べましたが、比較的低廉な利用料ということからも入所を希望される方、ご家族が多くどこも待

ち状態です。

そこでその待機期間中のご家族の介護への負担を軽減させるためのサービスとして、短期入所生活介護(ショートステイ)や通所介護(デイサービス)が設けられています。弊施設にはこれら2種類のサービスが特養に併設されております。介護保険上ではそのほかにも訪問介護(ホームヘルプ)等様々なサービスがあります。それらに関してはまた別の機会にということで、併設2サービスについてご紹介いたします。

「ショートステイとは、高齢者の心身の状況や病状、その家族の病気、冠婚葬祭、出張等のため一時的に養育・介護をすることができない、または家族の精神的・身体的な負担の軽減等を図るために、短期間入所して日常生活全般の養育・介護を受けることができるサービスのことで」す。(Wikipediaより抜粋)費用は大体、これも個室か大部屋、介護度、所得によって変わってきますが、2000円から3500円くらいで、もちろん食事、送迎も含まれます。1泊から最長30日間ご利用頂けます。

最後にデイサービスですが、「高齢者に対して入浴、食事の提供、機能訓練、介護方法の指導その他の便宜を提供する」サービスです。(Wikipediaより抜粋)日中施設で過ごして頂くサービスです。費用は介護度によって変わりますが、1500円から2500円くらいです。

以上の施設を平成11年から市内で運営してまいりました。介護保険に関してご質問のある方はお気軽にお問い合わせください。

また次回以降にふるさと調布・早稲田のご紹介をさせていただきます。

福井 浅子(昭49社会)

新年おめでとうございます。今年を私達にとって、良き年としたいと思ひます。

昨年に続いて英会話をしませんか?と言うよりは、お話をしましょうよ!! 英語でも、セミ英語(英語+

ローマ字)日本語を混ぜて考えればよいのです。私達外国人は、どんなにしてもネイティブの様な綺麗な発音はできません。

それならば、ゼスチュアやイントネーション等の

表現を研究して、ジャパニーズ・イングリッシュで話すしかないと思います。とにかく毎日毎日少しずつでも、自分自身の表現を研究する方が良いと思います。

一人でぶつぶつ言っている、あの人、頭がおかしくなったのではないかしらと、かんぐられるかもしれない。同じ程度の人とでもよいから、繰り返し話すことによって、パッと、素早く言葉が出る様に、努力したり、お互いに直し合っていくうちに、流暢な会話になるのではないかしら。

もう一つ、どうしてもこだわるのであれば、希望する方々で、ネイティブの先生を探して、教えて頂くしかありません。そこで前者をAとし、後者をBとして考えると、Bの場合は、授業料が高くかかりますので、皆さんと相談の上となります。

Aの場合は、授業料は無料、但し、資料・場所料、千円位必要となります。関心のある方で、A or Bのどちらかを選んで次の所に電話を下さい。

TEL : 042-499-2130 福井 (お問い合わせは3月上旬

迄にお願いします)

- (1) Aの場合の月日 : 3月22日(木)、3月25日(日)
- (2) 時間 : I時限 : 12時~13:30 (初級前期。初めての人。日本語でOK)、II時限 13:30~14:50 (初級)、III時限 15:00~16:20 (中級)
- (3) 場所 : シャノール喫茶店 (調布駅東口前コンビニの2階)
- (4) 料金 : コーヒー代実費 (300円位)、授業料無料
- (5) 内容 : 自己紹介。趣味。今年したいこと何でも。
- (6) その他 : コピー代1枚10円少々持参下さい。
- (7) 当日の出欠席 : 次の電話にお申し込み下さい。

TEL&FAX : 042-499-2130 福井 (昼12時~深夜12時迄可)

福祉まつりバザーのご報告

吉田 忠洋(平13アジ研修、平19アジ研博)

去る12月4日(日)、調布市役所前広場にて、恒例の調布市社会福祉協議会主催「第34回 調布市福祉まつり」が開催され、調布稲門会も例年通り福祉

バザーの出展を行いました。

当日は、雲ひとつない晴天に恵まれ、多くの来場者で賑わったこともあり、多くの方々にご提供いただいた物品もほとんどが売れました。また、バザーと同じく出展した焼き餃子の販売も好評で、規定の終了時刻の前にはすべて売り切れてしまいました。

当日の様子は、



別添の写真のとおりですが、多くの方にお手伝いいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

我らの同好会活動のコーナー

ワングル同好会のお誘いと活動報告 ～ワングル同好会って？～

天野 凡子(昭56文)

「ワングル」と聞いて「登山なんて無理、無理！」と思われる方はいらっしゃいませんか？

私の場合はそうでした。まだ稲門会に入ってから間もない頃(8年位前)、この会の代表をしていらした川島義幸先輩にお誘いいただいた時「ワンダーフォーゲル」＝「けっこうハードな山登り」だと思った私は最初は“丁重にご遠慮”申し上げたのです。でもよくお話を伺ってみると山に限らず東京近郊の街歩きや名所めぐり、川辺・海辺のハイキングなどをしているとのことだったので、これなら私でも大丈夫そうと入会してみました。(ちなみに「ワンダーフォーゲル」は、渡り鳥(ドイツ語)の意味でももとは山野をグループで徒歩旅行する活動をいうのだそうです。)

参加したらこれが毎回楽しくて♪ 簡単に行けそうでもこれまで機会がなくて行ったことのなかった所にたくさん出かけることができました。たいてい季節も良い時期なのでウォーキングも快適です。何より年齢性別を問わずみなさんといろいろなお話しをすることができて多くの方と知り合えたのも大変嬉しいことです。

そしてここ数年は舞木先輩に大変お世話になりながら、この同好会のご案内役

をさせていただいています。

「一度参加してみようかな」と思われた方がいらっしゃいましたら次回のご案内をお送りいたしますのでご連絡ください。春は是非ご一緒しましょう！

舞木孝治：042-486-0665 / 天野凡子：042-480-2503

～2011年秋のワングルは～

今回は多摩丘陵の一角に位置する生田緑地内にある川崎市立日本民家園見学を企画しました。11/13当日は前日の雨も上がって爽やかな秋晴れとなり、10時に小田急線向ヶ丘遊園駅に13名が集合して元気に出発しました。ウォーキングというにはあっけないほど近くて15分ほどでもう民家園到着です。

この民家園は消滅しつつある古民家を将来に残すことを目的に昭和42年に開園したもので、各地の古民家が二十戸以上も移築されています。正門を入るとそこは

タイムスリップしたかのような昔の世界。今回は興味のあるところを各自思い思いに回る事ができるよう自由見学にしました。本館展示室で民家の普請や構え、古民具などを見て基本的な知識を得たあとは自然にグループに分かれて昔巡り開



始です。

自然の山の姿を活かして移築しているので、園内は高低差も有りまさに秋の山里そのもので歩くのも楽しいコースです。百年・二百年と風雪に耐えた家はどれも風格があり堂々としていて、もっと小さな古家を想像していた私には驚きでした。少し進むと「佐々木家」で「お抹茶と和菓子」の案内を発見！ 早くも女性グループは休憩にしてかぼちゃ餡のお饅頭とお抹茶をいただきました。

更に行くとい紙漉きの実演があったり、竹ひごを編む籠造り体験があったり、とても精巧にできた竹細工の販売があったりで見飽きません。竹の籠造りはなかなか面白そうでしたが、初心者は簡単なものでも3時間位はかかるそうで見ただけにしておきました。他には水車小屋や

船頭小屋、高倉、歌舞伎舞台などもあり、多くが重要文化財に指定されていて見応えがありました。

そして13時半に再集合して民家のひとつ合掌造りの「山下家」内のそば処「白川郷」で昼食&打ち上げでビールも。おつかれさまでした～

紅葉真っ盛りには少し早かったけれど、青い空を背景に緑を残して赤や黄色に色付いた木々に囲まれた山里の景色がきれいでとても爽やかな一日でした。

(参加メンバー) 敬称略

大谷(暁)、大谷(暢)、斉藤、竹下、濁川、山崎、舞木、川島、竹下(裕)、塚田、中野、山田、天野

(各同好会・代表者)

囲碁・将棋： 塩沢 誠 042-484-1505
 早川 政夫 042-487-9610
 大谷 暢廣 042-481-0202
 カラオケ： 小笠原 忠八郎 042-481-6867
 硬式テニス： 五十嵐 眞 03-3308-0898
 中村 輝夫 042-485-1217
 ゴルフ： 安松 薫矩 042-588-5726
 フラダンス： 大谷 裕子 042-485-7489

社交ダンス： 元木 勇 03-3300-4554
 野地 勲 0425-91-5038
 太極拳： 中野 完二 042-485-0523
 麻雀： 濁川 寿次 042-483-6966
 ワンゲル： 舞木 孝治 042-486-0665
 天野 凡子 042-480-2503
 食・歩会： 山田 和子 042-488-0741

『紺碧』第34号の一部訂正につきまして

『紺碧』第34号(2011年6月発行)の記事につきまして、一部内容に誤りがございました。

「第30回 調布稲門会 総会報告」の2ページ右8行目。総会の会場で募った東日本大震災の被災者への義捐金の金額が間違っておりましたので、以

下の通り、訂正させていただきます。

(誤) ¥79,000

(正) ¥97,000

今年前半の主な行事日程

2012. 2. 19 (日)

調布稲門会 新年会

2012. 5. 27 (日)

調布稲門会 総会

<編集後記>

会報『紺碧』の編集を引き継いで、今回で2回目の編集作業となりましたが、前回同様、紙面をバランス良く埋めるのに少々苦勞しました。事前にいただいた原稿の分量が当初の予想より多かつたこともあり、合計で10ページの新年号となりました。今後も、より良い紙面づくりのため、原稿を書いてくださる方を随時募集しております。ご提出いただける方は、下記Eメールまでお願い致します。

また、素晴らしい写真をご提供して下さった五十嵐様・山崎様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

昨年2011年は、日本にとって多くの困難に直面した年となりましたが、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますことを祈念しております。(吉田忠洋)

『紺碧』原稿受付Eメールアドレス： tadahiroyo@hotmail.com

| | | | |
|---|--|--|---|
| <p>旭化成建材(株)指定工事店 外壁塗装・屋根塗装 株式会社住まいるスズキ 代表取締役 鈴木 光孝 〒182-0028 東京都調布市染地三・五・六五 電話 〇二〇・〇八〇・二四二</p> | <p>深大寺そば 創業文久年間 〔宴会・俳句会・御法事〕 元祖 嶋田家 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町五・十二・十 電話 〇四二・四八二・三五七八 FAX 〇四二・四九九・六六五五</p> | <p>新しい食文化を創る 株式会社山田屋本店 代表取締役社長 秋 沢 淳 雄 住所 〒182-0024 東京都調布市布田三・一・一 電話 〇四二・四八二・四五八五 FAX 〇四二・四八二・四五七二</p> | <p>不動産賃貸 中村不動産管理株式会社 代表取締役 中村 俊 一 住所 〒182-0035 東京都調布市上石原一・一〇・一 電話 〇四二・四八二・二〇三三</p> |
| <p>思いをカタチにするそれを支える プロの技がここにあります 冠婚葬祭・出張料理・パ・ティ料理・会席料理 アジサイワールド(株) 電話 〇二〇・五五五・五八五 FAX 〇四二・四九九・七八八一 http://www.ajisaiworld.co.jp</p> | <p>桜田倶楽部 東京テニスカレッジ 会長 秋 山 一 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町二・三二・一 電話 〇四二・四八二・二二〇九</p> | <p>早稲田大学商議員 早稲田大学調布稲門会 会長 元 木 勇 自宅 〒182-0003 調布市若葉町二・二二・一〇 電話 〇三・三三〇〇・四五五四(代) FAX 〇三・三三〇〇・八七二八</p> | <p>林建設株式会社 取締役社長 林 清 一 住所 〒182-8512 東京都調布市小島町二・五六・三 電話 〇四二・四八六・一一一一 FAX 〇四二・四八六・一一二〇</p> |